

山川里海 新作狂言

なごや妖怪狂言

冥加たらえ

作やまがわせいふみ

♪ 【次第】

雨が下には雨合羽 (雨が下には雨合羽) 我らはいろはにほ、への河童 への河童

河童太郎――寵り出たる者は、木曾の山に住まいする 河童太郎でござる。

この度、百年ぶりに 人間どもの「尻小玉」を・・・エッヘン

この度は、恐れ多くも龍神様から、百年に一度の密命を賜り、

小河童どもを従えて、雪解けの沢をすべり、大河を泳ぎ下りて、

ただ今、尾張の都 名古屋は、堀川の岸辺にたどり着いた。

小河童――ピュッ！ (指さし) (ありやなんじゃ?)

小河童――金色の魚が二匹。城の天辺にピッカリ！

河童太郎――あれは、水をあやつる物の怪で シャチ “と申す。城を火から護るが役目じゃ。

小河童(全)――ピュッ！ (なるほど)

小河童――ピュッ！ (りやなんじゃ?)

小河童―― (小判かけ) (金色の丸板が、川底でピッカリ！)

河童太郎――それは、人が、物や働きと取り替える小判というものじゃ。

われらにとっては 木の葉も同然。捨ておけ 捨ておけ。

小河童――ヒュッ！ (捨てろ)

小河童――ヒュッ・・・ (捨てろ)

河童太郎――よいか。 我らのお役目は、わかっておろうの？

小河童―― (得意げに) 人間どもの尻小玉を。

河童太郎――シッ！ (あわてて口止) ……のう…。 たんと集めて 龍神様の元へお届けするにじや。

万―誰かに知られたら…。

小河童――知られたら…？

河童太郎――その時は、龍神様の妖力でたちまち河原の石にされる。忘れるでないぞ！

小河童 (全) ――ヒュッ～～～！ (恐怖)

河童太郎――さあさあ、ともかくにも、人間と相撲をやってこそ、玉が採れるというもの。

某が合図を出すまで、橋の下に潜んでおね。

小河童 (全) ――ヒュッ！

おからねこ……今日は、納屋橋に妙な風が吹いておる。はて？、何ぞあるものか。

河童太郎……やや。たいそうな者がこれへ参る。あれほどの凶体ならば、さぞかし良い玉を持つに違いない。

小河童(全)……(立)ヒュウ！

河童太郎……いかあに 小河童ども かかれとこそ !

♪ 素囃子 河童相撲

小河童(全)……ヒュウ！ (はじき飛ばされ、転がる)

河童太郎……ああ、まず待て、まず待て。人間が相手なら負けるはずもない。さては、お主、物の怪か ?

おからねこ……モノノケ？ (高笑) そんな毛はどこにもニャア。

この見事な毛並みと、牛馬に劣らぬこの体。

この国の者とは思われんとて、人間どもはわしを「おからねこ」と呼ぶわ。

河童太郎……ほう。すると、はるばる唐の国から渡ってきた お猫でござるか ?

おからねこ……とろくせゃあ！ わしは、名古屋の生えつきだわ！。

その昔、徳川の殿様が この名古屋を創られた自分に、熱田の杜でニャアと生まれて、

この川を掘った福島正則さまニャア、よう可愛がられたもんじゃ。

この陣羽織も福島さまにいたでやあたまんだで、() 回転 足拍子 () とえりやあ だやあしうだろおっ。

河童太郎――ほくお。するとおからね殿は、この川の主様でいじわるな？

おからね(――) 上機嫌 笑 () お主、話がわかるのお。と云うで、お主は何用じやっ？

河童太郎――我らは、人間どもの尻小……。

小河童――ヒュッ！ () 太郎の口止め ()

河童太郎――() 咳払い () 我らは龍神様のお供えに、人間どもと相撲を取らんと

はるばる木曾の山家から、この城下に入りてきたものじや。

おからね(――) なんじや。そんなことなら、わじりませやあつげ。

のうのう、その舟人足。この河童と相撲をうらぬか、のう？

河童太郎――な(――) 耳すま(――) 今せわ(――) じや。

おからね(――) 太郎と肩組み 移動 () やらやら、その魚屋、

桶を下ろしてこの河童と相撲をうらぬかやら？

河童太郎――な(――) 耳すま(――) その隙に(――) しが魚をぬい(――) ますの(――) じや。() おからね(――) 舌打 () 移動 ()

おからね(――) やあやあ お城仕えのお侍さま。ちと腕試しを() 腕叩き () なむらぬか？

うわあ！

河童太郎——刀かたなは おしまいでござれ。

おからね——あかんで。あぶにゃあて。 (二人でんでに 逃げ惑にまどう 息切いききれ。)

(一息の後、振り向き)

河童太郎——いかん、早馬はやうまじゃー！

おからね——ひゃあっ！ (跳はね跳とび 転ころがる)

おからね——ふう。危あやうく蹴け飛ばとばされるじやうじやうだ。

河童太郎——汗あせふき (近ちかごろの城じやう下げは、世せ知ち辛がらいのう。

おからね——全まじくじや。

この川も福島ふくしまさまが掘ほられた頃ころより、たいそう汚よれておるが、近ちかごろは気きにかける者ものさへおらぬ。

(ため息) (昔むかしは、わしの祠ほらにも 疫えき病びやう封ふうじの願がんかけに、 何なにを問ま違ちがえたか

おからを山盛やませりに供ともえる者ものが 後あとを絶たたんだが……。

(大おほため息) (今いまでは 祠ほらが ほりまみれ。

河童太郎——ほう。この分ぶんでは 我われらのお役やく目めを果はたすも 敵まじしかろうのう……。 (弱よわ気き)

小河童――「ヒュッ……」（弱気）

河童太郎――「なんとしようのう……」（大ため息）

小河童――「ヒュッ……」（大ため息）

甘酒女――「弱気じゃ。わらわの出番じゃえ。」

♪ 甘酒 いらんかえ。 とうおり ああまい ほおかほかの甘酒じゃえ。

小河童――「甘酒？」（立）

小河童――「甘酒じゃと？」（立）

小河童――「とうおり ああまいと？」（立）

小河童――「ほおかほか じゃと？」（立）

小河童――「ヒュッ！」（甘酒女に「寄せ」）

河童太郎――「ほう……。こんな時は、甘酒でも やけ酒でも 飲みたいものじゃ。」

（甘酒女 ゆったりと吸引 太郎を 吸い寄せ）

おからねこ――「うら、河童！ あれはいかん！ まずお待ちやね。（袖引）

河童太郎――「（おから猫を振り払い）さうに吸い寄せらね。（もうし）もうし……」

甘酒女――「あゝ。呼んだかえ？ ふう……。（太郎 気絶）

小河童(全)……ヒュッ！(太郎を助け起こす)

おからねこ……ほおね、言わんこっちゃにやあ。この性悪女め！

甘酒女……おんや、性悪女とはまた人間きの悪いこと。

忘れ去られたもんは、汚れにまみれて消えるが運命。おからどのもそろそろかえ？。(笑)

おからねこ……ニヤアッ！(足拍子 追い払う)

甘酒女……ほい！(欄干に飛び乗る) (不気味笑)

河童太郎……はあ。あれは、この疫病神でござるか？

おからねこ……さあな。昔は堀川にも、色んな物の怪が出入りして、それはそれはにぎやかだった。

天狗躰子じゅろ？(布団かぶせじゅろ？)

天王蛙に、尻切れ田螺に、紙舞に、七つ提灯、鎌イタチに、片目鮎に、小女郎狐……

小河童……そりや 楽しげじや。

小河童……会いたいものじや。

小河童……いっしょに相撲を取りたいのう。

甘酒女……(笑) みんなならわがフウッ！と、したわいな。

河童太郎―― さあさあ者ども 高札を上げよ！

小河童―― ヒュッ！ （小河童 シテ柱に集合 太郎 高札を 打つ）

おからねこ―― なになに？ （高札見上げ） 梟加さらえ？

甘酒女―― （高札見上げ） 堀川に？

おから・甘酒―― 宝の山々？！ （先を争って正面へ移動）

おからねこ―― アユの大群でも上ってきたきや？ （川面をのぞく）

甘酒女―― またまた人間どもが戦でも始めたかえ？ （見渡す）

河童太郎―― （笑） よおし、者ども、ただちに近郷近在の川べりへ高札を上げてまいれ。

小河童（全）―― ヒュッ！

河童太郎―― ちゃっつと行け。 ちゃっつと行け。

小河童（全）―― ヒュッ！ （中入）

おからねこ―― やい、河童。お宝なんぞどこにある？

甘酒女―― 影も形も見えませぬ。

河童太郎―― ほれ、あそこ…… （おからねこ 甘酒女、先を競って 小判へ）

甘酒女――なあんじゃ。 小判かえ。

おからねこ――こんなもの ねこに小判じゃ～～～～い！） 投げ捨て

河童太郎――（ 目で追う ）ピッカー キラキラ、

甘酒女――ポツチャン、スブ スブ！

おからねこ――おいおい、小判につられて、だれやら五条橋から飛び込んだぞ ！

甘酒女――（ 欄干にのぼり 見渡す ）あれあれ、 美濃路からも 佐屋街道からも、 碁盤割の街筋からも

人がわんさか押し寄せてまいるえ。

河童太郎――ほお、 土嚢で流れをせき止めて、 水を汲み出す者も現れた。 （ 感心 ）

おからねこ――人間どもの足元で 魚がぴちぴちはねておるわ。ニヤア！） はしゃぐ。 （ 。

甘酒女――泥やらごみやら、 川底の汚れが土手に積み上っていくわ。 （ 指さして ）

おからねこ・甘酒女――（ 顔を見合せ ） た・か・ら・の・山じゃ。 ヒュッ！ （ 歓喜 ） （ 中入 ）

河童太郎――ほ、とっと行ったわ。やいやい小河童どもあるかやい。 （ 呼び寄せ ）

小河童――ヒュッ！ お前に！

河童太郎――これだけ人が集まれば、 選り取り見取りじゃ。 皆の者、かかれとせ。

小河童……ヒュッ！ (整 列)

♪ ① 河童相撲はお供えじゃ (ヒュッ) 人足すくって担ぎあげ (ヒュッ)

回し回して目へらまじ (ヒュッ) 尻もちツッテン玉受けホイ (ヒュッ)

② 尻小玉は賣ぎ物 (ヒュッ) 不老長寿の妙薬よ (ヒュッ)

回し回して目へらまじ (ヒュッ) 、尻もちツッテン玉受けホイ (ヒュッ)

(太郎 小河童の玉を袋に回収)

河童太郎……はあ、皆よう働いた。龍神様もさぞかしお喜びになろう。

(玉袋を覗き喜び) 良い玉が、たんと採れたのう。

おからね……出 (はあ、食った食った ゲップ。)

もうこも、白魚も、アユも、ぼらも……。当分、見たくもにやあわ。 (腹鼓)

(太郎 二人の気配に慌てて袋を懐へ隠す)

甘酒女……出 (吸った 吸った。) 一ねほどの汚れを吸ったは、関ヶ原の合戦 以来じゃえ

おからね……やい、河童あ。 (強引に肩を組み) 堀川に仰山人が来て、きれえになって……。、

わしは もう思い残すじやないやア。 (泣)

甘酒女――（吐き氣）（おからどの、弱氣はもうたぐさんじゃえ。

おからねこ――にゃあ！）怒（これは弱氣でにゃあ。（間）（カンゲキ じゃ！

ところで河童相撲はどうなった？ わしが腹ごなしに相手をしようぞ。

河童太郎――いや。 我らもこのカンゲキが何よりの土産。 いざ木曾へ帰ろうぞ！（手を上げ（

小河童――ヒュッ！ （本舞台前に 並び 飛び込みの構え。（

おからねこ――なんじゃ。 早居ぬるということが あるものか。（太郎の襟をつまんで引き戻す（

河童太郎――このや、何とすぬ。

おからねこ――遠慮はいらぬ。 さあさあ もそっと相撲をとれやい。（太郎を 投げ飛ばす（

河童太郎――ホイ！（玉 転がる（

小河童（全）――ヒュッ ヒュッ ヒュッ（切り戸から 入（

おからねこ――（玉を拾い上げ、かざす（このや なんじゃ？！

甘酒女――美しい玉じゃ。（見とれた後 表情一転） ややっ！ これは まさか……。

おからねこ――ニヤ、ニヤンと！？ 人間の……？

河童太郎――ああ、まずお待ちなれ！ シ〜〜〜ッ！

おから／甘酒――尻しり　小こ　玉たま　？！

(龍神 出)

♪ 天地たちまち鳴動めいどうし (天地たちまち鳴動めいどうし) 鳴神なるかみ 稻妻いなずま 満みち満みちて

波なみを蹴けた立てて 虚空こくうを引き裂ひく 大蛇だいじやの形 龍神りゅうじん たちまち あらわれたり

(三人 それぞれに 特徴ていしやう的なポーズで 固かたまる)

龍神――(笑) おからねこよ！ (おからねこ 解凍かいどう)

此度こたひ 汝なんじは、泥どろの中で毛すが擦すり切きれるほどによう働はたらいた。 真まことにあっばれじゃ。

おからねこ――にゃ、にゃあ。 (かしこまる)

龍神――甘酒女あまざけおんなよ！ (甘酒女 解凍)

汝なんじは、欲ゆくと言いう人の汚けがれを吸ひいまくり、 見事みごとに冥加みやがさらえを成なしたのう。

甘酒女――あい~~~~ (照てれる)

龍神――さて、太郎 ー！！ (太郎 解凍) 覚悟かくしはできておるの？

河童太郎――ヒュ・・・。 (ひれ伏ふす)

某それがしは どんなお咎とがめも 頂戴ちやうたいいたしまする。

